



「まちの風景が私を育てた」

～商店街が日常の一部だった～

福寿稲荷ごりやく市コラボ企画

令和7年

11月23日(日)

12:30～14:00

＜会場＞ 蒲郡市中央通り商店街(福寿稲荷ごりやく市会場内)

株式会社カンセイ蒲郡支社駐車場内

※雨天の場合は蒲郡市勤労福祉会館3階大研修室

＜参加費＞ 無料 手話通訳有り ＜定員＞ 50名程

＜申込み期限＞ 令和7年11月20日(木)まで

＜申込方法＞ 事前申込みフォームから 立ち見 OK!



全体コーディネーター
高野 雅夫
(名古屋大学大学院教授)



鈴木 寿明
(蒲郡市長)

プログラム

- 12:30 事例発表
福寿稲荷ごりやく市実行委員会
事業承継 手作り提灯(ひな庄)
地域活性化市民グループ「蒲蛙」
こども商店チャレンジ企画
- 13:25 パネラーによるディスカッション
- 13:55 市長総評
- 14:00 閉会

2002年、蒲郡商工会議所は中心市街地活性化基本計画に基づき「蒲郡 TMO 構想」を策定。翌年には商店街や市民が連携して『福寿稲荷ごりやく市』を立ち上げ、中心市街地の交流拠点として歩行者天国での催しを通じて賑わいづくりに20年余り取り組んできましたが、新たな賑わいを生み出そうと商店の若手後継者や地域活性化市民グループのメンバーなど、若手店主のみならず、まちの未来に希望を描き、まちづくりに関心をもつ多様な人々が関わり、新たな賑わい創出の動きが始まっています。

中心市街地の再生には、新規参入者による事業展開や、世代を超えた事業承継の促進など、地域経済の循環を支える多様な取り組みが求められています。変わりゆく商店街の中で、世代や立場を越えて人々が集い、つながり、共にまちを創り出す。この「共創のまちづくり」こそが、これからの中心市街地活性化の鍵となります。これから変わりゆく中心市街地に、いかに多様な世代の人々を集め、つながりあう「まち」をどう創るかなど、彼らの「まち」への想いを聞き一緒に考えます。



福寿稲荷ごりやく市実行委員会 山下真弘

商店街の若手後継者である山下真弘((株)山崎屋仏壇店)、竹尾友宏(竹尾設備興業(株))、鈴木崇之((株)鈴木新聞舗)、小池健太郎(小池商事(株))を中心に、『福寿稲荷ごりやく市』を通じて多様な世代の人々と関わりながら、これから変わりゆく中心市街地の活性化を目指した新たな賑わい創出の動きが始まっています。中心市街地に人々が集い、つながり合う「まち」をどのように形づくっていくか、その模索が進められています。



事業承継 手作り提灯ひな庄 太田光世

曾祖父・祖父・母と3代にわたり地域の祭り文化を、手作り提灯で支えて続けて来ました。幼い頃より日常の中に商店街の風景があり提灯づくりの生業を、祖父や母の背中を見てきました。いずれ私も作りたいと思いながら就職・結婚・子育てをしてきましたが、4代目として手作り提灯づくりを絶やしてはいけないと思い取り組み始めています。



地域活性化市民グループ「蒲蛙」 柴田拓弥

かつて賑やかだった商店街で行われていた、銀座祭りや蒲郡まつりを経験し、ごりやく市の存続が危ういことを知り、こどもの頃の思い出と、将来に希望や夢を持つ自分たちのこども達にも経験させたいと、柴田拓弥・関野達紀・林大地・関ルスランの同級生4人組で結成した「蒲蛙」。商店主のみならず、まちづくり人などに呼びかけ新たな賑い創出や地域活性化に汗を流しています。



こども商店チャレンジ企画プロジェクト 原田あい

こども商店は、こども達が主体となって、自分で調べ、どうすれば出来るかを考え、チャレンジしてみる。そして楽しさ・難しさ・喜びも失敗も楽しむプロジェクトです。今の商店街を知り地域の方と顔が見える交流を深め、こども達自身が地域活性化と安心して暮らせるまちづくりを体感します。商店街の大人達もこども達と真剣に向き合います。ぜひ、こども達のチャレンジを応援してください。

(敬称略)

申込方法・期限

①申込み方法：参加希望の方は、2次元コードの申込みフォームからお申込み下さい。

申込みフォームからできない場合は、氏名・電話番号・メールアドレスを明記して E-mail

または電話・FAX もしくは直接お申込み下さい。

<申込み先> 蒲郡市役所 企画政策課 〒443-8601 愛知県蒲郡市旭町 17 番 1 号

TEL:0533-66-1162 FAX:0533-66-1190 E-mail: kikaku@city.gamagori.lg.jp

②申込み期限：令和7年11月20日(木)必着



氏 名
電話番号(当日連絡可能な番号)
メールアドレス
所 属